

東京

「其の日暮らし」

＝ドイツ編＝



新しい我が家

この5月に引っ越しをすることになりました。引っ越しといっても新しい我が家は今の家から1kmと離れていません。キッチンが付いていない家もざらにあるドイツですが、新しい家もベッド以外すべて付いているので、今回の引っ越しもスーツケース3個と数個の段ボールでお手軽に移動が出来るのです。

日本では、家を解約する時は管理会社や大家さんに1ヶ月前に通知するのが普通ですが、ドイツでは3ヶ月前に書面で大家さんに提出します。その3ヶ月の間にそれぞれ気に入った家をじっくりと探すのです。5月に引っ越しを決めた私たちは、2月初旬に大家さんに書類を提出し、主にインターネットで物件を探し始めました。前回の経験があるので今回は ①見学依頼をメールで送る

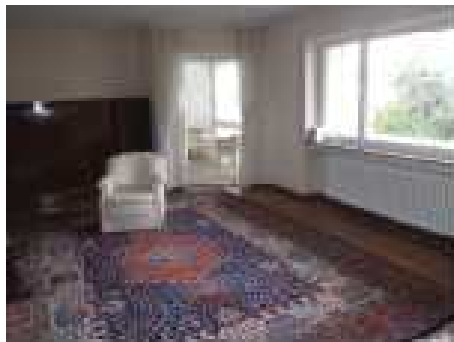
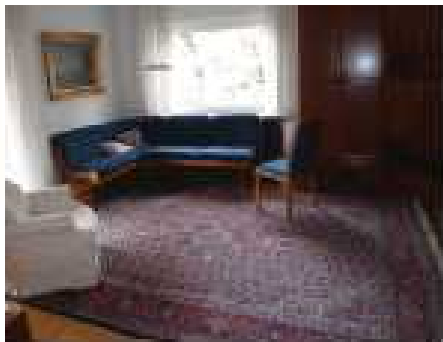
②翌日連絡がなければ電話をかけるといった手順でどんどん探し始めました。例えばある物件は3部屋で85㎡もある家なのに2人用の為4人家族の私たちはメールの段階で断られたり、メールの返信が無いため電話をしないと、学生専用の物件なので見学を断られたりして候補が次々に無くなっていきました。3ヶ月前から探すとはいえ断られたりする回数が増えると、本当に引っ越しできるか心配になってきます。ムクムクとわき上がる不安と戦いながら、ふと見たキッチン無しの物件がありました。すごく広い物件で家賃も予定より高く、キッチン無しと書いていたので今まで内容を見ないで飛ばしていたのです。家の紹介を読むとなんとキッチンを無料で借りる事が出来るというのです(たまに「前の住人から1000ユーロで購入出来ます」というのもあるのでラッキーなことなのです)。早速メールをすると、見学許可が来ました。

その家は地下1階地上3階建て。地下に1世帯、1階、2階に各1世帯、3階に2世帯で合計5世帯が住めるようになっていきます。大家さん(推定60代)が子供の頃に住んでいた家を賃貸用に改築したそうです。おそらく築年数は50年以上は経っているでしょう。物置用のスペースだけでなく、古い家には必ずあるというワイン倉も付いているのです。床もフローリングと言うよりも寄せ木造りと表現できるような床。年代を感じさせるどっしりとした作りで、見せて貰った部屋は2階部分の家でなん

て貰った部屋は2階部分の家でなん



日差しが心地よいサニールーム①
窓が大きなリビング②
調度品が豪華なダイニング③



と124㎡もあり、サンルーム付き。以前の住人の家具や絵画が残っていたので余計ゴージャスな印象があったのです。もし住めるのなら、絵画と居間のテレビ以外はそのまま貸して貰えるということでした。そして色々な人に助けて貰って無事契約が終了、なんと3月の初旬に引っ越し先が決まったのです。あつという間でしたが、5月になっても住む家が決まらないという事態にならなくて本当に良かったのです。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞